

発言者	目標	内容
1 大日方委員	【全体】 議論の方向性の確認	重点的に取り組むことの方向性について、事務局であらかじめ示してもらえると、それについての考えを発言するとはできる。 示された資料だけで“どこを重点的に”という意見になってしまうと、理解が進んでない上での無責任な発言になってしまう。
2 小木曾委員	【全体】 方向性は大きく変わらない	延長の期間が2年と短い。 新しい総合戦略が出来たとして、多分今とあまり変わらないような内容であり、行政で重要と考えているものと同じものが入ってくると思う。
3 梅干野委員	【全体】 総合計画の課題	そもそも総合計画の在り方自体を見直しても良いのではないか。どこの行政が作っても同じようなものが出来上がってしまうのが今の総合計画の問題点。
4 梅干野委員	【全体】 情報発信	重点化するのであれば、重点の部分を市民や市外にも発信をして、ちゃんと人を呼び込んでくるようなことをやっていかないといけない。その際、サブテーマもしくはキャッチフレーズといったものが重要になってくる。
5 牧野委員	【全体】 情報発信	総合戦略を8割ぐらいの人が“知らない”または“聞いたことはあるが内容は知らない”というアンケート結果になっている。 何かテーマなりサブタイトルといったものがあって、インパクトのある取組を行えば何をやっているかというのが分かりやすいのでは。 市民の人たちにも浸透していかないと上手いかないのではないかと感じる。パッと見て何をやっているのかが分かるように進めていくことが大事。
6 大日方委員	【全体】 情報発信、特色を出す	市が向かう方向性が市民に浸透していると、施策は進めやすいのではないか。 例えば、どの視点で目標1から4を見ていくかという部分で、キャッチフレーズを付けたり、長野のカラーを入れるというのもとても大事。
7 池尻委員	【全体】 特色を出す	長野市のカラーがなかなか見えない。 せつかくこの2年があるのであれば、思い切ったことをやってみたらどうかと思う。 今まで上手いかなかった部分は、なんとなく皆さんの中にも「こんなのありきたり」であつたり「やっぱりまたこれか」と感じているだろうし、私も一市民としてそうのように感じている部分がある。 特に小さい市町村を中心にそれぞれカラーを出してきており、頑張っている市町村が多いなと感じる。
8 池尻委員	【全体】 特色を出す	今まで上手いかなかった部分についてグループで議論し、その中のいくつかを目玉商品として実施したうえで、2年間の成果を振り返り、次の5年間に繋げていく。
9 牧野委員	【全体】 特色を出す	長野の色を入れられなかったら、あとはどう変えても、どの自治体が作っても同じような内容になるのではないか。 皆さん大事に思っているところは一緒の気がするので、重点化の議論はあまり意味がないのではないかと思ってしまった。

発言者	目標	内容
10 清水委員	【目標1】 多様な市民の活躍	発達障害や精神障害等の方々の就労支援を東京のIT企業と一緒にやっている。 長野市にもITで頑張られている企業があるので、そういった企業とテレワークであれば働ける方々を絡めて、本当はスタートしたかった。 でも現実には、東京や関西の企業と障害者の就労について考えている。 長野のIT企業が、福祉やテレワークといった分野で「一緒に参画していこうよ」と言ってもらえたら、働く側も企業側もお互い分かりあえる。
11 小木曾委員	【目標1】 若い世代の人材確保	身近で働いている大人の姿しか見ていないので、長野らしさといったところが職業に結びつかないのでは。 「ナガノのシゴト博」は学生や社会人向けだが、子供を対象にできないか。 役所が作ると堅くなるので、デザイナーや漫画家に依頼し地域の仕事が輝いて見れるようにしてほしい。 夢ばかりではなくて、働くことは大変なこともたくさんあるが、「働くことは凄い良い事なんだ」ということを前面に押し出したほうが良い。
12 小木曾委員	【目標1】 若い世代の人材確保	女性が活躍している企業や、障害をお持ちの方が活躍している職場をもっと取り上げていただいて、小中学生にアピールしていただきたい。
13 小木曾委員	【目標1】 若い世代の人材確保	学生が就職活動するときに、テレビで見たところしか就活をしない。 企業はもっとアピールしていただいいていいと思う。CMをしても立派に経営されている会社がたくさんあるはずなので、そういった企業が長野にあることをPRしていただくと良い。
14 清水委員	【目標1、目標2、目標4】 若い世代の人材確保 地域への愛着の醸成 魅力ある教育の推進	幸せな未来を描けない子供たちが多く、その子たちに理由を聞くと「働きたい会社が長野に無いし、大人たちは楽しくなそう」と言われてしまっている。 そう考えると私たちが働くということを伝えるのは、会社の数を伝えるのではなく、会社の質ではないかと思う。 そこを含めてこの目標1の部分が大切にされると嬉しい。 「働くということは凄く苦しいことじゃなくて凄く幸せなことなんだよ」というメッセージを子供たちにも、障害があっても働くのをためらっている人たちにもプレゼント出来たら嬉しい。
15 熊井委員	【目標2】 交流人口の増加 情報発信(長野ブランドの活用)	長野ブランドの扱いについて、「もったいない」と感じる。 長野というのは、海外で非常にネームバリューがある。 インバウンドはもとより、アウトバウンドを含めた企画が白馬や山ノ内などで動き始めている。 長野市を含めた9市町村が活かしていなかった長野ブランドを使って、白馬や山ノ内は世界とつながった。 せっかくの長野ブランドが、周りの市町村に利用されている。
16 熊井委員	【目標2】 交流人口の増加	数年前に、戸隠の聖地巡礼のキャンペーンを行った際、御開帳と同じくらいの集客力があつた。 松本空港が8月の1ヶ月間、大阪便の季節運航を行っている。 だが、松本空港から長野までの直通アクセスはない。松本空港長野駅経由戸隠までのバスの路線が1日1本季節運航というような企画支援を長野市で行うと関西からの集客も見込める。 旅行会社に対してそういった支援を要請することも考えられる。

発言者	目標	内容
17 池尻委員	【目標2】 「ながの」スタイルで 魅了する移住・定住	移住を考えると長野市に魅力がないと絶対に人は集まらないと思う。 ありきたりの中核市の長野市だったら決して誰も振り向かない。
18 小木曾委員	【目標2、目標4】 地域への愛着の醸成 魅力ある教育の推進	教え子の学生達や、ほかの子ども達に聞いてもそうだが、将来何になりたいのかを聞いても「会社員かな」といったぼんやりした答えしか返ってこない。身近にいる働いている大人の姿しか見ていないので、たとえば、長野らしさといったところに職業が結びつかないのではないかな。
19 伊藤委員	【目標2】 移住希望者の視点 に立った受入体制の 整備	インバウンドや定住策と言うが、インバウンドと言っても、外国人は旅行に来るだけ。 日本の物価が安いから来るのであって、物価が高くなったり、東京オリンピックが終わればそんなに来ないと思う。 本当に大事なものは、首都圏に住む中間層の人。 首都圏でも苦しい生活している人がいっぱいおり、例えばそういう人たちが長野に来れば、公営住宅が無料で入れるといったことがあればよいと思う。 たくさんある空き家を市営住宅にするなど、生活にそんなに余裕がない人たちに長野に住んでもらうための施策で環境を整えれば自然と定住してくる人もいると思う。 特に若い人は、仕事があるからなんとなく東京にいてだけで、そんなに生活が楽ではないので、地方に住みたいという人はたくさんいる。 ITの人材を増やすといったことや交付金がもらえるからというよりは、家や教育などのベースラインで生活を楽しませてあげるといった施策を増やすことが一番効果的だと思う。
20 横地委員	【目標3】 結婚の希望をかなえる ための環境整備	人口を増やす根本の自然増を図る部分で、白旗を上げるのはどうかと思う。 戦略では結婚・妊娠・出産・子育てと繋がっていくようなイメージで捉えられるんですが、結婚というのはその後の妊娠・出産・子育てとは別の方向で考えるべきではないか。 結婚支援では愛媛県がビックデータを使って1千組の実績を上げているほか、長野県でも結婚婚活支援センターが設置され、実績を上げている。そのぐらい思い切ったことやらないと自然増に繋がらない。 また、結婚支援は市町村が単独で取り組むのではなく、少なくとも長野県全体でやるべき。 今までは、妊娠・出産・子育てというのは、行政が比較的支援しやすく、結婚についてはなかなかできなかった部分であるので、ここを切り離して、県レベルで何かできないか考えられるとよい。
21 池尻委員	【目標3】 ライフステージに応じた 経済的支援	子育てに関して支援してくれる人が周囲にいないという家庭が割合として多く、母親が一人でがんばっている状況。 第二子以降の出産で、上の子がいて入院日数を延せないという方は、家に帰ってから週2回のヘルパー支援を利用したくても、所得制限などで対象外になってしまう制約がある。 産後のお母さんたちは自分のためにお金を使うということにすごく気持ちを引き裂かれる部分がある。 そういう人たちだから支援しないというのは、道理が違うのではないかな。

発言者	目標	内容
22 池尻委員	【目標3】 仕事と子育ての両立 支援	女性にもっと役割を持ってもらうという話があったが、私が運営する会社でも、女性が赤ちゃんがなかなかできなくて妊活したい、でも、保育士としてのキャリアもあり、役職も持っている。その中でどうやって妊活していくのかといった悩みがある。会社としては何とか支援していきたいと思うが、具体的にどのようにしてあげたらいいのかまだ分からない。
23 池尻委員	【目標3】 仕事と子育ての両立 支援	子育て中の父親が残業して帰宅するのが夜の9時、10時。そんな中で子育てしている方が多い。もっとそういうところで、行政が企業に向けて子育て中のお父さんたちが早く帰れるような施策を打ち出してくれると、世の中も含めて、子育てが変わっていくのではないかと思う。
24 池尻委員	【目標3】 多様なニーズに応じた 預かり支援	保育園を探すのが大変で、働きたくても働けないお母さんたちが本当に多い。もう少し何かやり方があるのではないかと、市だけでなく民間も入れながら考えていただきたい。
25 廣田委員	【目標4】 多様な主体の連携・ 協働	繋ぐ人がどう地域にいるかということが重要かと思う。 目標4に、「地域の住民やNPOなど重点的な活動による地域の実績に合わせたきめ細かな手法による地域課題解決や活性化の取組を支援します」ということで書いてあるが、それぞれの地域で活動していただいている方たちの力をどう活かしていくかということが長野らしさにも繋がるのかと思う。
26 横地委員	【新たな視点】 関係人口	関係人口への取組は、当然進めていくべき。
27 横地委員	【新たな視点】 Society5.0	Society5.0に実現は、全体の人口が減少していく中で積極的に進めていかないといけないと思っている。 この2年の中でSociety5.0をあえて取込まずに、じっくり後期基本計画の策定作業の中で取り入れていけば良いと思う。
28 横地委員	【新たな視点】 SDGs	SDGsについては17の目標と169のターゲット具体目標とか政策ということで、まさに全世界共通の総合計画と言えるのではないかと。 そういった意味で、あえて2年の延長の中で入れないで総合計画の後期基本計画の中でじっくりと考えていくことが良いと思う。
29 荒井委員	【全体】 次回のワークショップ について	ワークショップに関して、ある程度の道筋や方向論について共有した上で進めないと時間の浪費になってしまうかと思うので、そこを検討していただきたい。 とりわけ、大人数で議論をしている部分に課題を感じてワークショップをするのであれば、どこのテーマについて誰が属すというよりはグループに分けて全部のテーマについてそのグループで話すという方法もあるでしょうし、全体像を見ても全体像が分からない、サブテーマが必要だ、象徴するものが必要だとするならば、そこに焦点を当てていくというブレインストーミングをしていくことも意味があると思う。 重点とする部分を絞る上で、何を根拠とするかはそれぞれ印象論になってしまいがちであるため、そこを含めて誰がファシリテーターするのかや、グループ討議の後に全体でシェアするなど工夫していただきたい。